

**館報**  
**いりやま**

令和 2 年 7 月 1 日 現在

世帯数	850 戸
男	941 人
女	983 人
総人口	1,924 人

### 新型コロナウイルスと私たちの生活

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始めて半年以上の月日が経過しました。流行初期は海外のこと、都市部のことと思っていた新型コロナウイルス感染症も 2 月には松本保健所管内で感染者の確認がされ、あつという間に私たちの身近にも迫ってきました。

3 月には公民館や福祉ひろばで計画されていた行事も全て中止され、松の湯も休業となりました。さらには小中学校の一斉休校や卒業式の規模縮小と様々なことに影響を及ぼし、外出時のマスクの着用が徹底される等私たちの生活スタイルも徐々に変わってきました。

4 月に入ると各種団体では総会を開催する時期となりました。今年度は「密閉・密集・密接」の 3 密を回避し、時間短縮を徹底した中で総会を開催した団体、書面表決による議決を行った団体、総会を延期

した団体と様々な方法を取りながら各団体が対応しました。学校の入学式は卒業式と同様に縮小して行われました。また、この頃公民館では貸館を当面の間原則休止されることとが決定され、団体やサークルで公民館を利用することができなくなりました。

私たちのこれまでの当たり前前の生活や活動が制限されていく中で政府が「緊急事態宣言」の対象地域を全国に拡大しました。ゴールデンウィーク中の外出の自粛が全国的に呼びかけられ、地域で顔を合わせる機会は激減していきま

した。ゴールデンウィークが明け、新型コロナウイルスの感染者数が全国的に徐々に落ち着きだすと長野県を含む 39 県で緊急事態宣言が解除されました。それに伴い 5 月 16 日より松の湯の再開、22 日より公民館の講堂を除く貸館の再開、6 月 1 日より公民館の講堂、福祉ひろば

の利用再開と順次施設の利用が可能となつていきました。現在は、感染拡大を防ぐために、飛沫感染や接触感染、近距離での会話への対策をこれまで以上に日常生活に定着させ、持続するための「新しい生活様式」を取り入れながら少しずつですが活動が再開されています。これまでの自粛生活で家にこもりがちとなり以前よりも運動の機会や人と会話する機会が減少したという方もいるのではないのでしょうか。第 2 波、第 3 波が警戒されている中ですが、外出することや人と接触することを過度に恐れず、最大限の予防をしながら運動不足、人とのコミュニケーション不足を解消していきましょう。



新しい生活様式の中で活動が再開される福祉ひろば (7月1日執筆)

### 田植え作業は初体験

山辺小学校 5 年生の体験学習の「田植え」が晴天となった 5 月 14 日、15 日の 2 日間にわたり橋倉地籍の田んぼで行われました。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5 年生 100 名の児童を 2 日間に分散して田植えを行いました。地区の子ども達との農業体験をサポートして 6 年目となる「こんな山辺にするじゃん会」(入山辺地区の将来ビジョンを考える会)の有志と「JA やまべ」の協力で約 1000m<sup>2</sup>の広さの田んぼに、もち苗を大切に手植えました。

ほとんどの児童が初体験で田んぼに入るときの泥の感触に驚いていましたが、苗の持ち方、植え方を教えてもらいながら徐々に慣れて上手に植えることができました。JA の指導員からも、さすが山辺の子ども達は筋が良いと高評価をいただきました。これから時々稲の生育の観察をし、秋にはおいしいお米がたくさん収穫できることを楽しみに待ちましょう。



### 新型コロナウイルス感染症に伴う制度のお知らせ

#### 特別定額給付金

新型コロナウイルスで影響を受けている全ての人を一律 1 人 10 万円を給付  
《申請受付期間》  
令和 2 年 8 月 17 日まで  
他の個人向け・事業主向けの支援制度も松本市ホームページに掲載がございましたのでご覧ください。

#### 未開封マスクの回収

未開封かつ未使用のマスクを回収し、必要とする施設等に分配します。平日午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分の間に地域づくりセンターで受付をしておりますので、使われていないマスクがございましたらぜひ地域づくりセンターまでお持ち下さい。(7月1日時点の情報です)

### 第18分団だより

日頃より入山辺地区の皆様におかれましては、私ども第18分団並びに団員に温かいご支援、ご理解、ご協力を賜りまして心より感謝しております。

松本市消防団第18分団は、赤澤第28代分団長以下55名にて、現在消防団の活動を行っております。

歴史的には入山辺村の時代から私達の爺さん、父さんと代々受け継がれてきた伝統ある組織です。今も受け継がれる「郷土愛」と「入山辺地区の皆様への生命財産を守る」志は先輩方から受け継がれる消防の心構えです。

また、消防活動は昼夜問わず火災、災害出動、行方不明者捜索など厳しい面もありますが、仲間同士の励ましや、先輩・後輩と関わり合いの中で育まれる絆など自分だけでは気付かない事も若いながらも次第に気づき、育まれていくと思えます。

訓練や機械・消火栓点検など休日に消防団活動を行うこともありますが、その中で培う仲間との絆は一生ものであることは大先輩方が証明しています。

第18分団の団員構成は三役

部長、班長、団員からなり、年齢層は20歳前後から40過ぎまでの幅広い構成です。幅広い年齢層との関わりは良い刺激となります。

ここで第18分団の各部紹介と担当地区の範囲を説明します。

本部三役は、赤澤分団長(三城)、百瀬副分団長(包石)、中野副分団長(既所)です。

自動車部は、柳澤部長以下10名で入山辺全域をカバーし構成団員も全域から募られています。第1部は、平林部長以下6名で橋倉、南方地区です。第2部は、中澤部長以下8名で西桐原、東桐原地区です。第3部は、原山部長以下8名で千手、駒越、北入中部、舟付、宮原地区です。第4部は、大輪部長以下10名で三反田、上手町、原、既所、奈良尾です。第5部は、阿部部長以下10名で大和合大仏、一の海です。

第18分団の定員は71名ですが、現在のところ欠員が16名も居る状態です。広大な地域を守る為に設定された定員ですが、若い担い手がなかなか集まらないのが第18分団を含め消防団全体の悩みです。

あまり難しい事はありません。村の仲間として、また消防団組織を媒体とし、地域へ

の貢献と地元の間との絆を結んでみましましょう。頼もしい仲間と共に、入山辺を盛り上げてみませんか。

第18分団としての独自の年間行事として入山辺地区の山林パトロール・分団訓練・水出し訓練・救命訓練やポンプ操作大会に向けての訓練、また、東山ブロックや全団訓練と、年間を通じ訓練を行いながら万が一の出動に備えています。

最近の出動状況としましては、数件出動しましたが、当入山辺地区においては、他の地域と比べ出動回数は少ない地域です。これも地域の皆様の協力があつての事です。

火災を出さない、灯した火は消えるまで責任を持ち、これからの災害の少ない地域としてご協力下さい。

第18分団では団員を通常募集しております。女性消防団員も歓迎します。団員募集については先に書きましました各地区の各部長又は、本部三役まで連絡を下さい。



### 町内公民館長会視察研修

7月4日(土)に町内公民館長会の視察研修が参加者13名で行われました。

今年度は松本市立考古博物館と牛伏川階段工を見学しました。

当日は午後1時頃に入山辺公民館に集合し、バスで移動をしました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策としてバスの座席間隔をとって座ることや窓を開放する等の工夫をしながらのバス移動を行いました。

松本市立考古博物館では市内で出土した土器や武器、装飾品が展示されており、皆さん興味深そうに見学をしていました。

牛伏川階段工では、内田公民館の丸山公民館長にご案内をしていただきました。途中雨が少し降る時間もありましたが、階段工を見学しながら川沿いを気持ちよく歩くことができました。

新型コロナウイルスの影響により顔を合わせる機会が例年より少ないですが、町内公民館長の皆さんで楽しく会話する姿が見られ、親睦の深まった視察研修となりました。

### 学校の生活



山辺 武井 翼 小学校5年生

コロナウイルスで学校は5月6日まで休みでした。しばらくは分散登校・半日登校、6月1日から全校登校になりました。会えなかつた友達や先生に会うことが出来てとてもうれしかったです。地域や学校の行事がなくなつてしまつたり、水泳の授業が行われなくて残念だけど、みんなと一緒に授業を受けたり、遊んだり、美味しい給食を食べることが出来てうれしいです。

その中でも印象に残っているのが田植えです。5月14日、15日に分かれて田植えの体験が授業でありました。入山辺の「こんな山辺にするじゃんか」の皆さん、地域の皆さん、JAの皆さんに手伝ってもらい苗を植えました。裸足で田植えをするのが初めてだったのでドロから足を抜くのが大変だったけど上手く苗を植えることができてうれしかったです。時々、学校の授業で稲の観察をしています。今から収穫がとて楽しみです。

